

2005年日本国際博覧会（愛・地球博）政府出展事業



7月の日本館イベント開催のお知らせ

第四回 にっぽん華座スペシャル催事

「津軽三味線 乱・舞・奏」

「日本伝統芸能十八撰（第四回）」

日本館では、世界に誇る日本の伝統芸能の原点を紹介する日本館イベントを、4月より開催しています。

（※8月まで毎月不定期日に開催）

このたび 第四回 にっぽん華座スペシャル催事「津軽三味線 乱・舞・奏」、
「日本伝統芸能十八撰（第四回）」につきまして、演目、開催時間などの詳細が決定いたしましたのでお知らせいたします。

第四回 にっぽん華座スペシャル催事「津軽三味線 乱・舞・奏」（つがるじゃみせん らん・ぶ・そう）

〈日 時〉 7/21(木) … ①13:00～14:20 / ②16:30～17:50（各回とも整理券配布は午前9:00～）

7/22(金) … ①13:00～14:20 / ②16:30～17:50（各回とも整理券配布は午前9:00～）

* 整理券は日本広場「にっぽん華座」前にて、各回分とも午前9:00より配布開始（各回約500枚）

〈開催場所〉 「にっぽん華座」～長久手日本館前 日本広場 特設会場～ にて

〈公演時間〉 約80分

〈出演者〉 津軽三味線奏者／上妻 宏光、木乃下真市、渋谷和生 ほか

〈演 目〉 「津軽三味線 乱・舞・奏」（つがるじゃみせん らん・ぶ・そう）

〈概 要〉 日本の伝統音楽の中でも、ダイナミックでリズムカルな即興性に富んだ奏法で近年注目を集める「津軽三味線」。世界的な音楽活動行う津軽三味線奏者“上妻宏光”を始め、日本を代表する“木乃下真市”“渋谷和生”の津軽三味線全国大会連続優勝を誇る異色の三人が競奏。津軽に古くから伝わる古典楽曲「津軽よされ節」や「津軽あいや節」で津軽三味線の奥深い魅力を存分に披露すると共に、津軽三味線の伝統と革新を追求し続ける彼等ならではの異色セッション、ジャズプレーヤの山下洋輔（ピアノ）、坂田明（サクソ）、吉野弘志（ベース）らとの即興セッションを披露。「原点」と「今」をつなぐ津軽三味線の迫力ある構成になっている。加えて東海地域を中心にメンバー構成されている津軽三味線グループ「和胤」（わいん）も参加、50名以上もの壮大な津軽じょんがら節の合奏をダイナミックに披露し、会場全体が感動の旋律で埋めつくされます。

上妻 宏光. Hiromitsu Agatsuma

1973年 茨城県生まれ。6歳より津軽三味線を始め、14歳で「全日本津軽三味線競技大会」優勝。「津軽三味線全国大会」にて、95、96年と2年連続優勝するなど、純邦楽の世界で高い評価を受けながらも甘んじる事なく、三味線という伝統楽器の新しい可能性を追求するため、国内外にて数多く他ジャンルとのセッションに参加し注目を集める。2001年『AGATSUMA』にてメジャーデビュー。翌年には全曲オリジナル作品によるセカンドアルバム『BEAMS ーAGATSUMA II』をリリース。同アルバムは、全米でも発売され、同年2月にはアメリカ東海岸ツアーを行い、各地にて大成功を収める。2005年1月には、EUツアーも敢行し大成功を収める。現在、国内外でのコンサート及びセッション、各メディアへの出演などにより活動のフィールドを広げ、“津軽三味線の伝統と革新”を追求し続けている。

木乃下 真市 Shinichi Kinoshita

伝統芸能である津軽三味線に現代的音楽を取り入れ、新しいジャンルの邦楽を追求する一方、正調津軽三味線もそのダイナミックで繊細な奏法は感動の域を超越する。エレクトリック三味線をいち早く取り入れ、ロック・ジャズ・打楽器等との共演を可能にし、津軽三味線を強烈にアピールしている。正調津軽三味線はもとより、TSUGAR FUJIONといった木乃下真市オリジナル作曲に日本の魂を感じるだろう。

渋谷 和生. Kazuo Sibutani

1970年 青森市生まれ。1986年 山田千里師の内弟子となる。
1988年 津軽三味線全国大会でB級チャンピオン。翌89年にはA級準チャンピオンに。同年、師に同行してフランス パリで公演
1991年、津軽三味線全国大会10周年記念特別企画 山田千里杯争奪大会でチャンピオンに。
1992～94年 津軽三味線全国大会A級チャンピオン3連覇を果たす。
1996年11月 日豪親善として、シドニーオペラハウス、民俗芸能文化交流としてアメリカ6州など海外公演も数多くこなす。1998年 青森県芸能文化奨励賞受賞。2001年 津軽三味線全国大会20周年記念山田千里杯争奪戦で優勝。
2002年 渋谷和生ソロCD「魂ーkonー」発売。2003年 国内の有望な伝承者に送られる「地域伝統芸能奨励賞受賞」5月 津軽三味線全国大会Aグループ団体「和三絃会」会主として団体優勝。10月 津軽三味線ライブハウス渋谷和生の店として「ふる里の響 あいや」を開店。

坂田 明 Akira Sakata
(アルト・サクソフクラネット)
1945年広島県呉市生まれ。1969年、東京でグループ『細胞分裂』を結成。
1972年、山下洋輔トリオに参加、1979年まで在籍。
1980年よりは様々な形態のグループの結成、解体を繰り返しながらミュージック・シーンの最前線を走り続ける。現在のレギュラー・ユニットは『坂田明・mii』。昨秋、「赤とんぼ」を発表した。

吉野 弘志 Hiroshi Yoshino
(コントラバス)
1955年広島市生まれ。東京芸大在学中よりジャズ・クラブに出演、坂田明、加古隆、佐藤允彦などのグループ、セッションに参加する。
現在は、自己のグループ『『彼岸の此岸』』とソロ活動を中心に、自らの民族楽器としてとらえているウッドベースの可能性を追究すべく、各国の様々な音楽家との共演も盛んにおこなっている。昨春、「on Bass」を発表した。

山下 洋輔 Yosuke Yamashita
(ピアノ)
1969年、山下洋輔トリオを結成、フリー・フォームのエネルギーギッシュな演奏でジャズ界に大きな衝撃を与える。その後、和太鼓やオーケストラとの共演など活動の幅を広げる。03年紫綬褒章受章。04年10月日米交流150周年記念アメリカ・ツアー、11月イタリア・トリノで自作協奏曲再演、12月ソロピアノ・アルバム『KIZASHI '04』発表、05年1月『ジャズマン忠臣蔵』上演など精力的活動を続ける。国立音楽大学客員教授。

「日本伝統芸能十八撰（第四回）」 ... 長久手日本館前 日本広場 特設会場 「にっぽん華座」にて

●演目と参加団体名●

〈日 時〉

7/23(土)

11:30～11:55	...	ほうか おど 放歌踊り （浜松市立都田中学校放歌踊り倶楽部／静岡県）	※応援枠
14:30～14:55		浜松市滝沢町に伝わる先祖回向の念仏踊り。中学生達が地域で継承される芸能を踊る。	
12:30～12:55	...	ぎょうざんりゅう やまぐちは わせや ししおどり 仰山流山口派早稲谷鹿踊 （早稲谷鹿踊保存会／宮城県）	
15:30～15:55		村の平安を祈願し、悪霊を追い払う行事の舞踊化。8匹の鹿が化け坊主（道化役）に導かれながら長いささらをしながら踊る。	
13:30～14:00	...	いわみ かぐら 石見神楽 （石見神楽社中／島根県）	
16:30～17:00		にぎやかな囃子によって神々の物語を再現。豪華絢爛な衣装や勇壮な舞は見るものを魅了し神話の世界へ誘う。	

〈日 時〉

7/24(日)

11:45～12:20	...	やまた おろち 神楽・八岐の大蛇 （土江子ども神楽団／島根県）	※応援枠
15:30～16:05		古事記による八岐之大蛇伝説を神楽化。小学生の子どもたちが中心となり舞奏楽をこなしている。	
12:30～13:05	...	和太鼓 （えひめ媛太鼓「雅組」／愛媛県）	
16:15～16:50		愛媛県八幡浜市を拠点に活動を行う。市の活性化に貢献したい者たちが集まって結成された太鼓チーム。	
13:15～13:50	...	うしぶか 牛深ハイヤ （牛深ハイヤ節保存会／熊本県）	
17:00～17:35		船乗り達の酒盛り踊りを起源とする南国特有の熱狂的なリズムによる踊り、見ても踊っても楽しくパワフルな民踊。	
14:10～15:10	...	じゃやましんじ かっこのまい ぬぎさげのまい りゅうしのまい 「蛇山神事」「羯鼓舞」「脱下舞」「竜子舞」	
17:50～18:50		（南宮大社神事芸能保存会／岐阜県） 五穀豊穡を願う神事で美濃置山の「からくり」の始まりといわれる「蛇山神事」と還幸舞と呼ばれる3種の男児の舞を行う。	

(注)※応援枠：「日本伝統芸能十八撰」に選ばれた18団体に加えて、子供たちによる演目や新しい伝統芸能の流れをつくる団体を「応援枠」として7団体選定。